（様式第４号）

令和３年度　第２回 武石地域協議会　会議概要

１ 審議会名	武石地域協議会
２ 日　　時	令和３年５月19日　午後７時00分から午後８時30分まで
３ 会　　場	武石地域総合センター3階　大会議室
４ 出 席 者	池内俊郎会長、金子るり子副会長、岡村正徳委員、荻原輝夫委員、金井修一委員、金井律子委員、川合節子委員、清住奈美枝委員、小林明美委員、桜井敏雄委員、城下昌史委員、橋詰正江委員、宮下覚委員、宮島友和委員【欠席委員６名】
５ 市側出席者	下村地域自治センター長、滝沢地域振興課長、樋口教育事務所長、小山市民サービス課長、佐藤産業建設課長、杉浦丸子・武石上下水道課長、若木地域政策担当係長、増田地域政策担当
６ 公開･非公開	公　開　・　一部公開　・　非公開
７ 傍 聴 者	０人　　記者　０人
８ 会議概要作成年月日	令和３年５月30日

協　議　事　項　等

１　開　会（金子副会長）

２　あいさつ（池内会長）

３　報告・協議事項

（１）武石公民館図書室の利用について

【質疑等】

（会長）　現在の公民館図書室は武石公民館の管轄下で運営されている。

新センターの設置にあたり、図書室と学習室を設定するにあたりご尽力いただき、それを実現している。

新装開店となった武石地域総合センターの中にリニューアルした図書室・学習室が存在していることは地域の皆さんに周知されていると思う。

新しくなったことで改めて注目度が深まると思う。

今後の利用に大きく期待したいところではあるが、現状を見ると、改善してもらいたいところが多くある。

改善してもらいたい点を、大きく３つにまとめている。

基本的に図書室の今後のあり方（存続するかどうかも含めて）どのような形で運営していくのかを考えていきたい。

存続・運営に関する基本的な方向性は教育委員会で設定すると思う上田市教育委員会に内容をお聞きしたい。

１　武石図書館図書室の運営方針

「第二次上田市図書館基本構想」の策定にあたり、

・武石公民館図書室を利用されている方々からのアンケートがなかった。

・基本目標の取組項目の中で各図書館のあり方検討が明記されているが、武石公民館図書室はあり方検討が明記されていない。

①第二次上田市図書館基本構想の中で上田創造館分室と武石公民館図書室について、「施設整備にあたっては利用者の意見要望等を聞きながら関係機関と協議していきます。」と記載されているが、具体的にはどのように行われるのか。

②今後、「武石公民館図書室がどうあるべきかを教育委員会としてどう考えているのか」を確認させていただくというのが趣旨。

２ 現在の武石図書室利用等に関する要望項目

開館時間について、武石地域総合センターが開所し、武石公民館図書室の開館時間が他の図書館、図書室に比べて、短いことがわかってきた。

現在の市内図書館の開館時間

上田・丸子・真田図書館

平　　日…午前９：00～午後６：30

土日祭日…午前９：00～午後５：00

休 館 日…上田図書館：月曜日

丸子図書館：月曜日、第３・４金曜日

真田図書館：月曜日

上田情報ライブラリー

平　　日…午前 10：00～午後８：30

土日祭日…午前 10：00～午後６：00

休 館 日…火曜日、第２・３水曜日

上田図書館創造館分室（図書室）の開館時間は、

平　　日…午前９：00～午後６：00

土日祭日…午前９：00～午後５：00

武石公民館図書室

平　　日…午前９：00～午後５：00

土日祭日…休館

これは、公民館の管理、勤務体系に沿って運営しているので、時間的な制約が発生してしまう。本来、利用者を収集するべきであろう地域の小中学生等が、利用したい時間帯に公民館図書室が開いていない。

また、仕事をしている大人も午後 5：00 で閉まると勤めが終わって図書室に来ると閉まっていて利用することが困難である。

利用する時間が限定されていることによって利用率等も延びない。

第二次上田市図書館構想で謳う、「地域図書館的役割」「図書館サービス向上」さらに、エコールサービス（上田地域図書館情報ネットワーク）の利用にもそぐわない状態であり、武石公民館図書室の開館時間が限定されていることから、利用状況を促進するには難しいと考える。

更に、武石公民館図書室の新刊図書の購入予算が年間 10 万円で、他の図書館・図書室は桁が違い 100 万円単位で予算付けをしている。

エコールによる貸し出しでカバーするとしても、利用時間が短いことにより、エコールを活用することが難しい。

①武石公民館図書室の開館時間を上田図書館創造館分室と同等の

平　　日…午前９：00～午後６：00

土日祭日‥午前９：00～午後５：00

②新刊図書購入予算を 100 万円単位に増額をお願いしたい。

どう使うかはこれから検討していきたい。

３今後の武石公民館図書室運営態勢の安定化に向けて

武石公民館図書室の運営体制を、より安定的なものにし、上田市図書館の管理体系の中に位置付けてもらうとすれば公民館で管理するという今までの方式だといろいろ制約がある。

武石公民館としても、開館時間の拡大等の要望が出たとしても公民館の中で負担しきれないというのが現状。

本来ならば上田市図書館の行政サービスの中でフォロー、手当てすべきものを公民館に一方的に任せてしまうというのは筋が違うと思う。

他の図書館・図書室と同じように図書館行政の中に移行して運営してほしい。

面積や蔵書の数等の条件により、図書館法では難しいということで、体系的に図書館の流れに加えていただくのであれば、他の図書館の分室という例えば丸子図書館分室もしくは、上田市内、他の図書館と同等の条件で利用ができるように整備した方が長期的に存続できる道だと思い、提案させてもらう。

これを教育委員会に投げかけをし、公民館と調整をさせてもらいました。

公民館の意見としても内容を理解いただけたと思う。

武石地域の多くの方々が同じ内容で幅広くそういうものがあるということを示してもらったほうが良いという意見もあり、この地域協議会の中での検討だが、場合によっては住民自治組織の住みよい武石をつくる会、自治会連合会、ＰＴＡ関係と実際に学童施設等の保護者、含めて幅広く声掛けをする主体を募った方がよいと思う。

しかし、組織の中にいろいろな事情があるので、内部人事も難しい。時間的な事もあると思うので、その場合はどうするかというのを今後各団体と詰めさせていただけたらと思う。

付属でこういう主旨で出願しますのでお願いしますと一筆だけで連名でお願いする。

形式はいろいろあるが、住民自治組織のほうでは「地域協議会で頑張ってね」と言われている。

自治連は、主旨の話はしており、「話は受けた」ということで「了解したという意味でいい」ということ。中身的にはまだ、細かな協議はしていないが、回答をもらっている。

もう一回持ち帰って、この内容で大丈夫か見てほしい。

「武石公民館図書室の利用」のより円滑な住民サービスを重視した開館にしたいということを上田市教育委員会にお願いしていく。

地域協議会として教育委員会に意見を上申することは地域協議会の設定主旨に沿っているか

（センター長）　大丈夫です。

（会長）　かつて、上田の駅前の情報ライブラリーに、民間委託するのかという問合せを教育委員会にされ、その時の議事録等も残っていた。

その団体から教育委員長に提案をして「上田市教育委員会として直轄で運営していきます。」という回答をされております。

その中で、図書室扱いとなっている創造館分室と武石公民館図書室は、いずれ図書館

分室として位置づけなおすような回答も書いてある。

創造館はその通りになったが、武石公民館図書室は従来通り公民館のままとなっている。そこは第二次上田市図書館構想の中では触れられていない。

10 年位前はそんな構想もあったようである。

全く、分室化というのは、検討の余地がないわけではない。

実際、すぐできるかどうかはこれから検討してもらう。

（公民館）　資料の中に市内図書館の開館時間が記載されており、武石公民館図書室だけが開館時間と休館日が記載されている。「他の図書館は休館日がない」と思われるが、上田・丸子・真田図書館は毎週月曜日が休館となる。その他の曜日も不定期で水曜日になったり木曜日になったりする。丸子は第一・第三・第四金曜日が休館になる。情報ライブラリーは毎週火曜日、第二・第三水曜日が休館。創造館の分室は上田図書館と同じとなる。

（会長）　どこの図書館がいつ休みということは、ホームページ等で確認できる。今回は開けてほしい時間帯や曜日を書いているため通常の休みは入れていない。仮に丸子分室となれば丸子に併せていくということが常識。主旨のところは時間の延長と土日祭日に開館してほしいということである。

（委員）　年間 10 万という予算のところで 100 万単位の増額を嘆願して大丈夫なのか。今まで利用者が少ないということで予算 10 万ということだと思うが、趣旨としては 100 万をいただき整備して利用者を増やしていく形をとるのか、何とか利用者を増やしながら予算をだんだん増やしていくという過程にしていくのか。

（会長）　100 万に根拠はない。具体的な用途については今後検討していかなければいけない。ただ、利用者数と蔵書の規模、エコールの利用状況などから予算の根拠となっていると思われるが、利用者数が多い少ない、エコールの利用が多い、少ないの議論は他の図書館と同じ利用条件の下に置いたうえで比較検討しなければいけない。利用者が少ないということは利用できる時間帯に開いていないという査証だと考える。第二次構想の中をみると公民館図書室にエコールが入っていることが特別扱いしているといったニュアンスに感じるところがある。たまたま公民館管轄になっているだけで本来は違うでしょというのが根本にある。とりあえずは増額して地域の人達も欲しい本があった時に自分たちの図書室で買ってもらうことができるといったところに持っていきたい。具体的な 100 万の使い方は地域の要望に合わせて購入図書を決めていくことになる。購入図書の希望ができますといった仕組み、汲み上げられる枠を作ってもらいたいというのが趣旨である。

（委員）　住民から要望があって議論しているものと思うが、公民館図書室という形では限界があるので、分室化とかを出していくことが一つの武器になるのではと考える。

（会長）　武石図書室は上田市図書館の枠の中にあるが、実際には管理者が公民館という変な形になっている。図書館の業務を公民館の職員が時間を割いている。上田市全体の中で武石図書室の扱いを決めてもらい、その中で人員配置も時間配分も決めてもらうことが正しいと考える。ある形を維持していくことは今の形では無理ということは分かってきているはずなので、これを我々が考える形に戻していこうということである。そのうえで、5 年、10 年後に維持は難しいということであれば別。少なくとも、上田市は第二次構想の中でも図書館サービスを向上させていくという看板を掲げている。そこには武石も含まれている。

（委員）　せっかく学習室を設置していても、学生が利用するとなると平日 5 時で終わってしまい、土・日曜、祝日には閉まっていて利用しづらいのではないか。学習室は土・日曜、祝日に開いていれば主な目的ではないかもしれないが、子供を持つ親からすると勉強するきっかけになるようなことは言えるのかなと思う。

（会長）　PTA 全体の意見化は可能か。

（委員）　持ち帰って PTA のほうに聞いてみる。

（事務局）　学習室の利用状況について 3 月 29 日に開所してから春休みだったので中学生、高校生が学校の始まる前まで毎日 3、4 人来ていた。最近も高校生が 5 時ぎりぎりまで利用していた。学習室がいっぱいとはならないが、多くて窓側の机はいっぱいにはなる。小学生については学習ボランティアが学校に入って毎日 30 分やっているが、一時期学習室でやろうという話もあったが 30 分の学習時間のうち移動等で半分くらいがつぶれてしまうということで利用はなくなったという経緯はあります。

（委員）　土日にやっていないので、丸子に行っているという話を何件も聞いている。学習室を利用したい理由が友達と一緒に勉強するためであり、土日祭日に開けてほしいと言っていた。

（事務局）　土日に開放することは可能だと思うが、見ている人が誰もいないところで子どもたちだけになった時勉強するのか、しゃべる場になってしまうと困るのと、子ども以外の方が会合などを開いたりされることが心配。誰か見ていないと心配ということで土日の開放ができない。

（委員）　学習室は会議室として使えるのか。

（事務局）　条例上設定していない為料金も設定していないので会議室としては使えない。

（会長）　整備検討委員会でも細かな使い方に関する議論はされていない。こういうものができますというレベルで 1 個 1 個の機能をチェックして個別の業務体系をどう作っていくということは考えていない。ハード面は良いが、ソフトは検討されていない。反省点はあるが、極力住民本位で回せるソフト的対応を順延していく。

（センター長）　私達も細かいところまで詰めてきていない部分があり、自由に使えるスペースがあるという細かいルールとかもう一回行政サイドも検討し、皆さんの意見を聞きながらできるだけ多くの方が利用できる方法を探っていき、一つの課題として今後検討していく。

（会長）　ホワイエも何に使っているのか。使い勝手を詰めていく余地がある。学習する場も 1 階で確保できないのかも検討していく余地はある。器ができてそれをどう使うかは地域住民の意向次第であり、センター側の管理者側の考え方もあり検討していく余地があると思う。

成文化して指摘のあった部分を取り込み整理する。6 月には教育委員会に話ができるようにしたい。

（２）岳の湯温泉雲渓荘のあり方について

【質疑等】

（会長）　雲渓荘の運営については地域住民の意向で平成 24 年ごろにスタートし、何とか残したいという要望書が上田市長に出され、以降継続して検討してきた。前期（７期）の地域協議会の中で存続のお願いをしてきたが、3 年間という一つの区切りをつけながら進めていくということになると次の 3 年間はどうするのかという話が出る。その中で地域の方

々の意向を確認しつつ進めていきたい。

直近の利用者数、令和2年は30年度に比べ1/3以下、短期的に見てもこの2年間がどん底であるのは事実。3年度も回復できるかというと従来計画の規定路線の数字だと3倍増、4倍増の利用者数にしないといけない。スタートが4月です。首都圏では緊急事態、県内でもレベル 4 が当たり前の状態に戻ってしまっている。なかなか今年も厳しい状況でこのまま 1 年行くのかという不安さえ感じる。当然ながらこれは難しいという結論しか出てこないが、基本的な流れとして利用者は徐々に右肩下がりできて、平成30年ぐらいで挽回し、令和1、2年は災害とコロナの2つでどん底という状況である。このトレンドをどうやって戻すかという発想の仕方で見ていかないといけない。平成25年を底として上げてきている。事業団として作成している長期計画の線に沿って上げてきている。併せて収入支出は人員が減りながらも事業収入をじりじりと上げてきている。この間色々な努力があり、事業団、雲渓荘のスタッフ、支援委員含めいろんなプランを立案し誘客を図る、インターネットを活用する等を含め、人員を減らしながらも、収入の方は上げてきているというトレンドを令和1、2年で1回つぶしてしまった。この部分を抜かせば収入は徐々に右肩上がりできた、併せて利用者数も平成25年を底としてもう一回底上げを図る方向のとことを見てもらいたい。産業建設課には今までの流れが分かる資料を示して、判断材料を分かりやすく提示した上でのアンケートとしてもらいたい。

対象者は18歳以上としているが年代とはどういう切り方をしているのか。

（事務局）　18歳以上～29歳、30代、40代、50代、60代、70代80代以上と考えている。

（会長）　千人ぐらいはやってもらいたい。武石の人口は約3千、世帯数は約1/3。回答率はどのくらい見ているか。

（事務局）　前回のアンケート調査は50%欠ける程度だったので、今回も同じ程度を想定している。

（会長）　回答したくなるような内容で作成してもらいたい。対象者は 1 世帯 1 人くらいがカバーできるよう千人程度はお願いしたい。アンケート内容だが、問5「将来の武石地域の発展のためには、次のうちどの住民サービスを充実して欲しいと考えますか」の設問は深読みすると雲渓荘以外で何が良いのかと読めなくもない。アンケートはやもすると誘導する要素が強くなり、設問の仕方によってはそちらに引っ張ってしまうことになりかねないため聞き方には十分注意してほしい。雲渓荘がいるかいらないかを聞くことが前提。ただし、次のステップとしては必要とは思うが、そこに引っ張ってしまわないようにしてほしい。必要ないとした方に対し何が必要かという聞き方の方が分かりやすい。質問の流れを作っていかないと配慮したアンケート内容にしてほしい。これは郵送でやり取りするのか。6月のいつ頃とか決まっているのか。

（事務局）　その通り。アンケート内容はまだ決まっていないので、6月中に実施し、6月末までに返信してもらいたい。

（委員）　令和4年度までは今まで通り続けていくが、その後の市からの補助金は出るのか。

（会長）　まだ決まっていない。

（委員）　様々な努力をされてはいるが、普通の会社でいう倒産寸前という環境の中で皆さんがどれだけ真剣に考えてくれるのか。やはり売り上げを増やすしかない。どれだけの覚悟でアンケートに答えてくれるのか心配である。どうやって売り上げを増やすのか、雲渓荘を残したいという気持ちがどれだけあるかということになると思う。そういう気持ちがないと令和5年度以降、市も見限ってしまうのではないか。まだ決まっていないので、

アンケートを実施するにあたって覚悟を持って皆さんが答えてもらえるか心配。

（会長）　3年間の予算付けが認められたのは昨年。令和5年度以降どうしていくかは地域の意向を受けて再検討。タイミング的に、少なくとも1年前には決まっていないと最後の1年間のどういう方向にもっていくか明暗になるため、今年度中には方向出ししたいというスケジュール含めてアンケートを6月に実施となっている。現場の努力はすごくやっている。ただし、資本金がない事業なので、設備投資も費用計算で落としてしまう。本来、固定資産、流動資産、資本金の積み上げがあり、資本をどうやって活用したか数値化するチェック機能（EOR）があるがそれがない。すべて費用で落としてしまっている。今年入ったお金、出たお金しか分からない、さらに施設の固定資産額が分からない。現実動いている施設なので現場は本当に努力されている。客数は落ちながら売上は少しずつだが上げている。客単価を上げているということ。指定管理料という市からの輸血とし3,700～3,800万は安くない。これをどうやって減額していくかということも必要。こういったことも含めて住民に分かってもらえるようなアンケートにしてもらいたい。令和2年度単年度だけで見れば存続意義はない。経理的側面からいうと、売上の3割程度補助しないと成立しない。市からの3千数百万は設備を維持する費用もしくは人件費部分のどちらかに充てられているのが現状。それでも赤字。営利事業としては成立しないことは分かっているので、福利厚生施設、福祉施設であり、どれだけの予算を使ったら維持できるかという視点の切り替えが必要ではないかと考える。ただ、湯水のごとく使うことはできないので、前期の地域協議会の中で、3年間で毎月原価を2～3%ずつ改善させ、売上も2～3%ずつ伸ばしていくと500万、600万ずつ改善できるので合計で1,000万位。3千数百万かかっているうちの2千数百万として4年で1回減額できる。そこを目指すと提案した。独自に雲渓荘の目標を設定されているが、それに対し地域が何をするかということで使って残すという流れになった。その流れを住民に理解してもらったうえで、残す、残さない、どう活用するのかということになった。そこのところが分かりやすい資料を準備してほしい。

アンケート内容は送付する前に協議会に示してもらえるのか。

（事務局）　スケジュール的に間に合わない。

（会長）　送付した後でよいので委員には出してほしい。

（事務局）　次回の協議会開催通知と一緒に送付する。

（３）診療所のあり方について（市民サービス課長説明）

【質疑等】

（会長）　診療所は医療という福利厚生の中核、経営が厳しい状況にあり、目安となる数字から2割以上減っているという状況であり経営的、財務的にも大変厳しい状況。だからといって辞めるということは人の命に関わることであり、地域医療とはそういったことであるので、どうやって確保していくのかが諮問の中身である。

（４）その他

第3回地域協議会の日程について

日時：令和3年6月16日（水）午後7時から

場所：武石地域総合センター　大会議室

４　閉　会（金子副会長）